広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	中国地方のイタドリの方言分布と解釈
Author(s)	広戸, 惇
Citation	ニダバ , 6 : 1 - 5
Issue Date	1977-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00050971
Right	
Relation	

中国地方のイタドリの方言分布と解釈

広　戸　　惇

1.　タヂヒとイタドリ

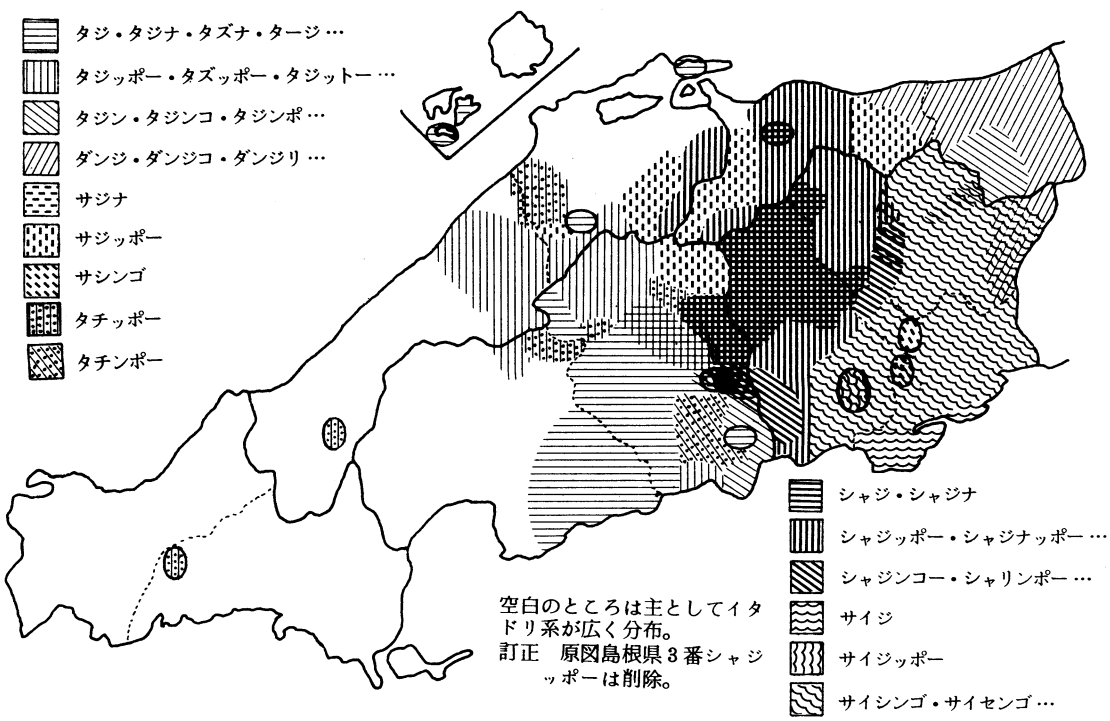
柳田国男氏の「虎杖及び土筆」にいう。「枕の草子時代の京都語がイタドリであつたことは，かの枕の草子の，杖無くてもありぬべき顔つきをといふ奇警なる一文章によって熟知せられる。それから遠く溯つて反正天皇紀の注記に，多遅(たちひ)の花は今の虎杖の花也とある虎杖も，此書の出来た時代には多分イタドリであつたらうが，別になほタチもしくはタチヒといふ語は伝つて居たのである。(略)現在に於てもイタドリとタチヒとは虎杖の日本語として弘い区域に行はれ，過去少なくとも千数百年の間，時の影響を受けて変化しては居なかつたからである。さうしてし細に其錯綜の跡を検すれば，二語は久しく併存し，其擇一は單なる小区域の流行であつたことが知れるからである」と。タヂヒについては大言海に，たぢひ　多遅比　いたどりノ古名。スカンポウ。反正即位前紀「洗太子時，多遅(タヂヒ)花落有干井中，因為太子名也，多遅比者，今虎杖花也，故称謂多遅比瑞歯別天皇」。さて，古文献を調べてみると，新撰字鏡　伊太止利，伊太登利。和名抄　伊太止里。医心方　以多止利。本草和名　以多止利。名義抄以下すべてイタドリ（虎杖）である。本草和名に武杖，苦杖。名義抄に武杖などの漢字もある。何れにせよ和名は一貫してイタドリであってタヂヒの名は文献から姿を没し，かつ特別の名称もない。日葡辞書もイタドリである。柳田氏はイタドリの分布について，「その北方の限界は越後であり，南端は土佐の海に及んで，中間にタチヒの領域を包み，九州には僅かなる浸潤を見るのである。関東平原の例はなほ乏しいが，少くとも武蔵にはもう此名は知られて居る。」という。タヂヒについては「自分の生地中部播磨では酸模をウシダンジと称し，ダンジは即ち虎杖のことであつた。ダンジは又隣の村々ではダイジとも謂つて居る。さうして僅かな野を越えて加東といふ郡に行けば，もうエッタンドリといふ語が行はれて居るのであつた。私は枕の草子を読んで所謂雅語のイタドリであることを知つて後，頗る自分たちの方言を恥づる感があつたが，近頃比較を重ねて見ると，ダンジは即ちタチヒであつて，古いことに掛けては遙かに他を凌ぐものがあつたのである。」と説く。そしてタヂヒ系の分布として，播磨，丹後，但馬，因幡，美作，備中，備後，安芸，伊予を挙げている。この中で自分が，心をひかれるのは，次のような一系統であるとし，サイジ　備前邑久郡，サイジンコ　美作苫田郡，サジッポ　備中川上郡，サシッポ　同小田・浅田郡，サジッポウ　出雲仁多郡とある。

全国のうち東北地方と九州地方は，全国方言辞典と柳田氏の説くところをみると，東北地方はサシドリ，ササドリ，サセドリが分布，九州地方は中部南部に，サド，サトガラ，サドガラが分布してい

る。これらの外に部分的なものとして，ドンガラ　秋田県・福島県，トンベガラ，ドンデンガラ，ドングロポ　山形県。トートンガラ　長野県。トトンガラ　新潟県と，ガラのつく形が九州と相対している。柳田氏はガラは恐らく稈であって，この植物が生長してしまって，茎になって後の名であろうという。千葉県のスカンポ，カッポはスは酸も意味し，茎の中空のところからの命名である。埼玉県のシーカンボーもこれに近い。ポンポン，ポンポンズイコが佐渡島に，ポンポンが長野県にあるが，折った時の音でありズイコは酸模との合併であろう。岐阜県のタケドリはイタドリのドリと竹との合作。ゴンパチが奈良県南部，和歌山県東部，三重県西部に一団となって分布するが，柳田氏も系統不明という。

以上をみると，タヂヒ系と思われるものは京都府北部，兵庫県，そして中国地方の東部に一団となって分布，本草綱目啓蒙にサジッポ勢州とあるのが誤記でないとすれば，タヂヒは，中国地方東部，近畿一帯にかつては分布していたと考えられるが，いずれにしても，全国にまで伝播するにいたらなかったことは確実である。イタドリ系については，全国方言辞典にイタイドリ丹後・島根と記載があるのみで，全国の分布については，前述の柳田氏の調査でみると，東は東海道筋の三河，駿河，武蔵の線。中央は信州，飛騨。北は越中。近畿。四国。九州は薩摩長島とある。これはイタンドリとか，イタズリ，イタドイとかイタドリの僅かな変形が挙げられているので，中国地方五県言語地図でみるイタドリのように，今少し広い分布を持つものと想像される。つまり，イタドリという地方の報告がないということである。としてもタヂヒが今日まで延々と続いていることには驚かされるし，またこの語は，近畿の周辺にとどまり，広く全国に延びなかったことも明らかである。

中国地方五県言語地図 77 虎杖



2　中国地方のタヂヒ

さて，中国地方の分布を見ることにする。柳田氏はサイジまたはサイジンコは，おそらく隣接のタイジとの混合であろうと言うが，分布図で見る限り，中国地方の東部は語頭に「タ・ダ」を持つ。「ダ」はダンジ，ダンジリとして分布，兵庫県のダンジ（藤原与一　Folklore Studies VOL XV による）に連なる。西部の島根県中部から広島県東部にかけてまた語頭はタである。ことにこの地方にはタジナ，タズナが圧倒的に多い。タジが広島県に2か所，タージが隠岐島に2か所ある。タジナは広島県に多く島根県には1か所しかない。タジはタジヒのタジであり，ナは菜と柳田氏はいう。古語タヂヒに最も近いタジナを西に，ダンジ・ダンジリを東におき，中央部に，語頭にサ・シャ・サイを持つ3つのかたまりがある。こうしてみると次のような対応が成り立つ。

タジ		サイジ	シャジ
タジナ	サジナ		シャジナ
タジンコ ダイシンゴ タチンポー	サシンゴ	サイシ(セ)ンゴ	シャジンコー
タジッポー タチッポー	サジッポー	サイジッポー	シャジッポー・シャジナッポー

したがって，中国地方東半分のタヂヒ系の分布は，もともとタジヒ → タジ → タジナを本源として，語頭がタ→サ→サイ・シャと変化したものである（岡山県のサイはsæiと発音)。地図では，サイの中に2か所と鳥取県中部にサが取り残されていることで証明できる。シャとサイとは新旧というより，中央部が南北にサからシャに，東部がサからサイに変化したとみるべきである。図には示さないが，カジッポー，ガシッポー各2はタヂヒ系に入れるべきであろう。タジッポー・サジッポーと同様の変化とみる。今一つの系統にタチンポー，タチッポーがある。広島県東部のタ系の中にあるタチンポーは，附近のタジンコの影響とも思われるが，同じタ系の中の中央部と出雲西部にあるタチッポーとも近いし，さらに西の石見，山口県に各一か所あるタチンポーと語形を同じくするところから，タジ系とも見られないこともない。ことにタチッポーの方は，周囲にタジッポーが多い。ただタチは，山野に丈高く立つ姿を想像した「立つ」が含まれるから別に置いたのである。タジ系とすれば，かつてはタヂヒは山口県にまで延びることになる。

山口県99番にはタチドリがある。この地点はタチッポー，イタドリ，タチドリの3つの語形のある地点で，タチドリはタチッポーとイタドリの合作である。こうみると，中国地方は広くタヂヒの分布していたところに，逆に西に上陸した新しいイタドリに，西から侵入された形跡を残していると見てよい。イタドリとタヂヒ系と重なった地点では，標準語の意識もあろうが，どこもイタドリが新と

いう。鳥取県 13番，島根県 58番など大をイタドリといい，食べられる頃をサジッポーという。

3. 中国地方のその他

イ. 音 か ら

折る時に音がすることから，カッポン，カッポー，コッポン，コッパン，ポンポン，コンコン，ポンポン，トントンなどが生まれた。スッポン，スイッポンは，酸味のあるところからの連想もあろう。タンポコ，タンポポもこの類と考えられる。スカンポは音と，茎の中空からと音から。

ロ. 酸味から

スイバは酸葉のことであり，酸味のあることからの命名である。ヤマシンゲのシンゲも酸葉である。「地図85. すいば」を参照されたい。

ハ. ハイタナ，サイタナ系

山口県東南部にハイタナ，サイタナがある。これは，瀬戸内海に分布する同語の上陸したものであって，瀬戸内海言語図巻で見るごとく，東は小豆島にはじまる。次のような変化とみる。イタドリ → イタナ（ナは菜） → ハイタナ（ハは葉） → サイタナである。「瀬戸内海域方言の方言地理学的研究……瀬戸内海言語図巻付録説明書」にいう。「私どもの記憶では，ハータナというのは，本来のイタドリとはややちがったものであった。茎が細く，枝わかれもしている。葉っぱの群らがったものが，ハータナであった。牛馬の飼料にこれを刈ったものである」と。語頭のハ → サの変化は，サイジが影響していると思われる。岡山県海岸部のサイジが，四国に1，山口県大島に3，遠く山口県の島に1を見る。それは広島県のタジナを飛び越えての分布である。海という特殊な条件が，遠くに運んだものと考える（瀬戸内海言語図巻参照）。古語にサイタヅマなる語があり，若草とも虎杖の別名ともいわれている。サイタナと極めて似た語であるが，サイタヅマの語は，地図にも現われず，今のところ手がかりがつかめない。

ニ. イタドリ系

地図の空白の部分に広く分布。これは燕の中国地方の分布ツバクロと同じく，西部の方に集まっている。こうした現象について未だ明確にし難いが，瀬戸内海言語図巻では，瀬戸内海は淡路島を頂点として，イタンズリが広く分布，それも，山口県の島々に入ると全く姿を没する。広島県の陸上西部に広くイタズリ，イタンズルが分布するところを見ると，イタドリは広島県西部に上陸，西半分を占拠，さらに出雲，隠岐と分布していったと考えられる。

追　　記

タヂヒは古くマムシ(蝮)の別名であった。蝮之水齒別命（記、仁徳），多遅比瑞齒別天皇（紀、反正即位前）。イタドリを何故蝮と同じ名のタヂヒと呼んだのか。タヂヒ（虎杖）が先にあり，タヂヒ(蝮)があとなのか，それともその逆かは今日ではさだかでないが，少くとも次のようになんらかの関係が

ありそうである。88 才の京都市嵯峨二尊院門前北中院町の農家の女性は，若い時，虎杖の幹を切ったら，青黒い 30 糎位の蛇が出たという。今も京都市内では，大きい虎杖の茎には蛇が入っているという。学生の報告のうち，茎の中にマムシ，青大将，シマヘビなど蛇の入っているという地点と数とを挙げて見る。マムシ　京都市 7，京都府 6，滋賀県 2，奈良県 1，富山県 1，石川県 2，和歌山県 1，千葉県 1，岡山県 1，香川県 3，愛媛県 1，福岡県 1。青大将　京都市 2，京都府 1，鳥取県 1。シマヘビ　京都府 1，滋賀県 3，福井県 1，愛媛県 1。クロヘビ　高知県　1，徳島県 1。カラスヘビ　兵庫県 1，岡山県 1。蛇が入っているというがどんな蛇か分からない，京都市 3，京都府 22，滋賀県 3，大阪府 2，兵庫県 3，奈良県 2，三重県 1，福井県 1，石川県 1，新潟県 1，岡山県 3，鳥取県 2，愛媛県 1，福岡県 1，計 87。入っていない，分らないと報告したもの 85 であり，半数が入っがいると答えている。蝮と虎杖とどこが似ているかとの問に，茎の色，模様が似ているというもの 37，芽を出した若い時の葉先が蝮の頭に似る 15，茎の色と葉先が似る 1，蝮の腹と似る 1，枝と先が似る 1，尾のところが似る 1，似ていない 3，分からないが 38 と 97 の回答があった。学生の生身地が京都府が多いこともあるが，イタドリの古名タヂヒと，蝮の古名タヂヒとの関係に何かの手がかりになりそうである。その後の文献にも，全国の方言分布地図にも，マムシに対しタヂヒ系と思われるものの残存していないところを見ると，虎杖と色，形の似るところから，マムシのタヂヒは一時的な中央語であったらしいと想像される。